



# 札幌市雪対策審議会の審議状況(第2回審議会後時点)について

## 1. 審議会の目的

人口減少など社会情勢の変化を踏まえた今後の本市の雪対策の在り方(基本方針)について、短期(今後10年程度)と長期(今後10~30年程度)の視点で検討のうえ整理。

**審議会における検討課題**

**課題1:持続可能な除排雪体制の構築**

- 除雪従事者の確保・育成
- イノベーションの導入等による除排雪作業の省力化・効率化
- 除雪従事者の減少を踏まえた作業方法(冬の道路環境)の検討

**課題2:市民ニーズや気象の変化に対応した除排雪方法の見直し**

- 生活道路の除排雪方法(パートナーシップ排雪制度等を含む)の検討
- 大雪時の柔軟かつ臨機な体制の構築

**課題3:健全な財政運営の見地から雪対策予算規模の検討**

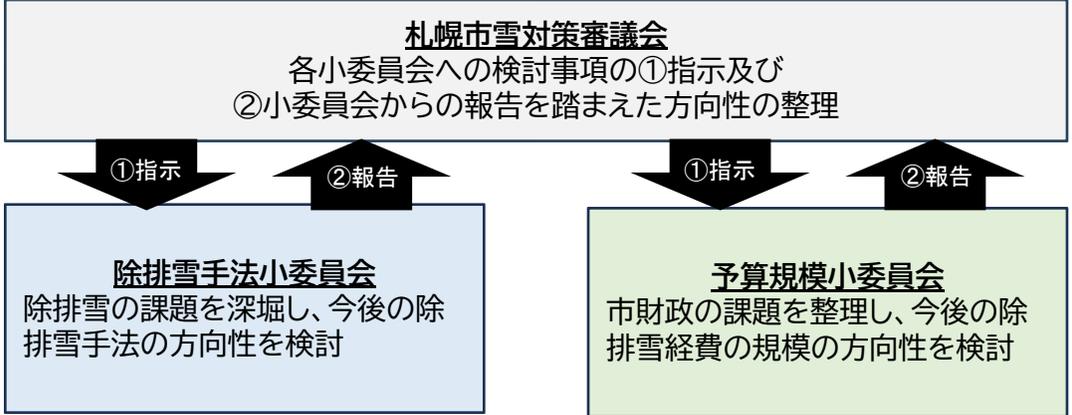
**課題4:雪との共生に向けた市民理解の醸成**

**目指す姿(想定)**

人口減少や担い手不足など社会情勢の変化や大雪などの気象の変化に対応し、市民が将来にわたり安心して冬季の生活を送れる持続可能な雪対策の実現

## 2. 審議会の構成

除排雪手法及び予算規模については、審議会での議論・検討のほかに、専門的な見地からの議論・検討も必要であることから、下記の2つの小委員会を部会として設置。



## 3. これまでの検討状況

※会議資料や議事録などについては、右記のホームページに掲載→

第2回札幌市雪対策審議会までに、以下の会議を実施。

開催状況	主な審議内容及び主な意見
審議会 第1回(7/2)	・審議会における検討課題の設定 ・小委員会(除排雪手法、予算規模)の設置
除排雪手法 小委員会 第1回(8/7) 第2回(12/3)	・生活道路除排雪は、市民や除雪事業者と意見交換しながら、令和7年度の試験施工を踏まえた検討・議論が必要 ・長期的な視点としては、先進技術の活用や市民・企業との協働が必要
予算規模 小委員会 第1回(8/21) 第2回(11/26)	・今後30年間、人口減少や税収減少が見込まれる中、除排雪費用を増加させることは厳しい見通し。 ・短期的には現状維持程度にとどめ、中長期的には税収減少に合わせて抑えていく努力が必要。

## 4. 第2回札幌市雪対策審議会(1/14)における主な意見

### 議事1:事務局説明(第1回札幌市雪対策審議会の振り返り等)

・イノベーションに向けて、他都市の事例や新たな熱源利用などの検討も必要。また、長期的な視点で新たな技術を検討していく投資も必要。

### 議事2:各小委員会からの報告

・審議会としては、除排雪手法の見直しと適正な予算規模について、それぞれの観点から検討・議論が必要。  
・生活道路除排雪は、今冬の厚別区と清田区で実施する試験施工を踏まえた検討や議論を手法小委員会で行い、改めて報告が必要。また、除排雪全体の工夫についても検討し、その効果や市民への影響を整理すべき。

### 議事3:雪との共生に関する検討

・気象に合わせた行動に向けては、除雪の出動状況や大雪時の外出抑制などに関する効果的な情報発信が必要。  
・雪との共生に向けては、市民との合意形成や参加しやすい環境が必要。

※今回の大雪対応により試験施工を中止としたため、「生活道路除排雪」の検討・議論の今後の進め方については再整理中。

## 5. 今後の予定

年度	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)以降
審議会	持続可能な雪対策の在り方の検討	基本方針策定(R8年度中)	基本計画の検討
生活道路除排雪	パートナーシップ排雪制度等も含む、今後の方向性を整理		基本計画策定(R9年度以降)